

平成29年度第2回墨田区図書館運営協議会会議録

1 日時 平成29年12月2日（土曜日）

午後3時～午後5時

2 場所 ひきふね図書館 会議室

3 出席者

会 長	上田 修一	(立教大学特任教授)
副 会 長	日向 良和	(都留文科大学准教授)
委 員	西村 均	(墨田区立竪川中学校長)
委 員	持田 由美子	(図書館ボランティア「ブックトークの会」)
委 員	齊藤 宮子	(図書館ボランティア「点訳きつつき」)
委 員	碓氷 喜信	(公募区民委員)

〈欠席者〉	安藤 芳典	(墨田区立曳舟小学校長)
	北村 志麻	(墨田区ひきふね図書館パートナーズ)
	佐藤 弘行	(墨田区ひきふね図書館パートナーズ)
	成田 美智子	(公募区民委員)

4 議事

- (1) 報告事項（資料1及び2）
- (2) 図書館ニュースについて
- (3) 図書館ホームページについて
- (4) その他

5 会議録

議事第1

報告事項

上田会長 第1番目の議事に入る。事務局に説明をお願いしたい。

高村館長 第1回墨田区図書館運営協議会で質問があった図書館・図書室の過去5カ
年の利用実績及び図書館と学校との連携の実績について、資料に沿って説明する。

(配付資料1及び2について説明)

上田会長 配付資料1に関して、図書館の平成28年度数値の減少は、3館が一定期間休館していたためのようなのだが、コミュニティ会館図書室の数値が増えている理由
は何か。

高村館長 緑・立花・八広図書館の3館が大規模修繕工事で、3・4カ月間ほど休館していた影響で、コミュニティ会館図書室へ利用者が流れたのではないかと考えている。また平成27年度はコミュニティ会館の1つが、大規模修繕で半年ほど休館していたので、利用者が減少していることから、平成28年度は増加した結果になったと考えられる。

上田会長 そうすると全体としては、この数年間、大きな変化はないということか。

高村館長 そのとおりである。

上田会長 資料購入費は増えていると聞いているが。

高村館長 新規購入数は、ここ数年1割程度増えている。統計上、図書の総数が減っている理由は、図書館3館の大規模修繕に伴うものや旧あずま図書館の閉架書庫に保管していた古い本を除籍した影響によるものである。

上田会長 除籍するのは何年経過した本なのか。

熊倉次長 汚破損状態の激しいもの等を精査しながら除籍した。

白木主事 一般図書に関して、毎年度発行される旅行ガイドや学校案内は、発行後5年以上経過しているものは除籍、その他の図書は、発行後10年以上経過しているものを目安に汚破損状態を見て除籍している。ただし、貴重本等については、除籍せずに保存している。

上田会長 今回多く廃棄されたのは、旧あずま図書館の閉架書庫に保管していた本だと思う。現状の保存スペースは余裕があるのか。

熊倉次長 ひきふね図書館が開館した当初においては、旧あずま図書館の跡地利用が確定していなかったため、当面の間、旧あずま図書館を、ひきふね図書館の閉架書庫として使用していた。現在、ひきふね図書館には約24万点収納できる自動出納書庫があり、旧あずま図書館の跡地利用方法が明確になったことに伴い、昨年度中に順次、自動出納書庫に移管した経緯がある。

上田会長 次に、資料2について何か質問があればお願いしたい。

持田委員 資料2の2、「児童・生徒1人あたりの学校図書館年間貸出冊数」とは、学校図書館の貸出冊数ということか。それとも区立図書館から貸出ししたものを1人あたりで割ったという意味か。

高村館長 学校図書館での貸出冊数である。

持田委員 小学校の平成28年度実績は、1カ月あたりにすると1人あたり3冊程度にしかになっていない。目標自体が低いのではないか。

高村館長 恐らく平成25年度の現状値が年間27.8冊だったので、それを基準に目標値を設定したものと思う。あまり実態とかけ離れた数値は設定できないので、40冊という目標値になったと思われる。

熊倉次長 指摘のとおり、決して大きな目標値ではない。来年度については、学校図書館を充実させていくための様々な取組をしていきたいと考えている。

高村館長 学校図書館に関しては、区立図書館だけではなくて、指導室や学校と連携し、来年度以降、利用を伸ばすよう努力していきたい。

上田会長 学校への団体貸出冊数は、学校からの申込みがあつて行っているのか。

熊倉次長 学校からの依頼に基づいて行っている。

上田会長 平成28年度実績値は、すでに平成31年度の目標値に近い数字だ。しかしそれは小学校の数が大きいからで、中学校の数は極めて少ないようだ。学校図書館の年間貸出冊数も、小学校はある程度進展が見られるが、中学校は絶対数が少ない。小学校と中学校でかなり違いがあることになる。中学校の実態はどのようなものなのだろうか。

西村委員 小学校の数値が非常に高いのは、夏休み前の頃から「調べる学習コンクール」に向けての団体貸出がとて多いためだと思う。小学生の7、8割は調べる学習に取り組んでいて、学年によっては全員やることになっている。1つのテーマで3、4冊使うので、借りる冊数も多くなる。一方、中学校の場合は、教科の宿題が大変多いため、調べる学習よりも宿題が優先されてしまう。学校によっては各教科の先生が課題を出したりしているので、担任が行っている小学校と比べて、中学校の足並みは揃っていない。このため、中学校での団体貸出冊数については、かなり厳しい部分があるかなと思う。また、授業中に使いたい本を借りることは、中学校の場合は少ない。例えば、遠足や修学旅行、野外体験や移動教室に行く際に、その地域を調べるために団体貸出をお願いするという、そのレベルの冊数と思われる。

上田会長 貸出冊数を増やすという目標を定めた場合に、中学校はどのようにすればいいのだろうか。

西村委員 今は週2回、図書館スタッフが学校に来て学校司書の役割を担ってもらっている。私たち図書館部員は、図書館スタッフに各教科の年間指導計画を渡して、この時期にはこういう本が必要だと思われるものを借りるよう進めてほしいと伝えている。ただ、それを借りてきてもらっても実際にそれを教員が使うかとなると、なかなか難しい部分もある。

持田委員 先生たちはなかなか時間がないので、対応が難しいところがある。

西村委員 選書する時間もないので、司書に頼ればいいという話はするのだが、なかなかそこまで浸透していかない。教員の負担をなるべく減らす形で、図書館を充実させていけないかなと自主的な会の中で話し合ったりしている。

上田会長 小学生は本を読むが、中学生になると読まなくなるということはあるのだろうか。

西村委員 私の学校の場合は、読書週間というのを年に3回やっている。10日間で朝15分読んで、つまり計150分だが、その時間で1冊を読み切るような本を選んで、それについてのブックレビューを書く。それなので、年に最低3冊は読んでいると思う。その他に感想文の宿題があつたり、POPを作つてブックレビューを

したり、ビブリオバトルもしている。そうすると、年間に1人4冊程度は読んでいるとは思う。

上田会長 それは学校図書館の貸出しと結びついているのか。

西村委員 なかなか結びつかない。例えば好きな本を持ってきて読みなさいと言うと、中学生だと皆ネット通販で買ってしまう。いちいち図書室に行って探すよりも、ネットで調べて買えば次の日には届く。そして読み終わったらすぐに古書店で売ってしまう。それなので家庭の蔵書が全然増えていかない。中高生になるとそういうことが多くなると思う。読書週間の朝、見回りをしていると、貸出本ではなく、自分で持ってきた本を読んでいる子がほとんどである。

持田委員 中学・高校になると、他人の目を気にする時期だ。この本を借りている自分、というように見られるのも嫌で、他の人を介さずに個人の中で完結できる読み方がいいのかもしれない。また、彼らが読みたい本が、学校図書館にあるとは限らない。例えばライトノベルのようなものは学校図書館ではあまり手に入らない。

上田会長 確かにネット通販は中学生でも便利に本が手に入ってしまう。持田委員は、今までの経験で、もう少し貸出冊数を増やすことについて何か案はあるか。

持田委員 やはりフレッシュな本を身近なところに置く、ということだ。

上田会長 そのためには、区立図書館としてはどうすればいいのだろうか。

持田委員 団体貸出で教室に置くのが最もいいと思う。できれば1カ月や2カ月で、どんどん種類を変えていく。

上田会長 生徒の関心も移るだろうし、そのような選書は難しくはないだろうか。

持田委員 どのような本が好きなのかは正直読めない部分もあるので、いろいろなものをどんどん用意する。どのような本に関心があるかは逆に予想しない方がいいかもしれない。

日向副会長 先ほどの西村委員の話で、団体貸出冊数について、中学校だと教科で連携していくとか、調べる学習でテーマを作ってやっていくのは難しいとなると、やはり中学校の学校図書館の蔵書の魅力が薄いのもかもしれない。中学生も関心がないわけではないと思う。学校図書館に行って読みたい、調べたいと思う本が少なかったり、古かったりするのかもしれない。学校図書館の充実という場合は、まずは蔵書の充実だ。また持田委員が言われたような、本を紹介していく働きをするような学校司書がいるかどうか。また団体貸出は、学校からの依頼に基づいて行っているとのことだったが、こちらからどんどん送っていくといい。そういう形で学校図書館に置いてある本の種類やジャンルを増やしていくようにする。来年やったからすぐに数値が上がるわけではないが、何年かやってみることで、少しずつ上がるのかなと思う。小学校では本を読んでいた子たちが、だいたい同じ学区の中学校に行ったら、読書量が大幅に減ってしまうというのは、とても勿体ない気がする。やはり中学生になったら、一人ひとりの関心で調べていくことに対応するため、長期的な

視点で学校図書館の充実を計っていくしかないと思う。そのためには資料をきちんと選書したり、管理できる人が、中学生に対して直接本を案内できるといい。そういった役割について区立図書館が支援していくことが必要と思う。小学校の目標値40冊を平成31年度に達成したら、次の目標値はいくつにしようという話になると思うが、年間4、5冊というのは、小学校だと少ない気がするので、平成32年度以降は60～70冊くらいまで増やしてもらえるといい。データとして精度はやや低いのだが、5月の1カ月に読んだ本は何冊か、という調査において、小学校高学年だと11冊という数が出ている。最終的にはそのくらいの数字まで持っていきよう、今は40冊のところを次の計画では60冊くらいにしてもらえればいいのかと思う。年間で40冊というのは、夏休みに10冊ほどまとめて借りることを考えると、毎月1、2冊だと思うので、もう少し増やしてもらえるといい。そのためには子どもたちが手に取ってもらえるような本を選んだり、もっとプッシュする等が必要だ。先生から、普段子どもたちはこんな本を読んでいる、という情報を貰うことも必要だろうし、ひきふね図書館に来る小学生のニーズも探り、これまでひきふね図書館で借りていた本を今後は教室に持っていき、という形で、うまく情報がフィードバックできると、もう少し数値を上げていくことができるのではないかな。学級からの依頼を待っているだけだと、先生次第になってしまうので、図書館から押ししていくようにしていく。そこでアドバイザー的な人がいればいい。

持田委員 先生方は忙しくて、本を依頼する余裕がないということをすごく感じるので、やはり図書館から積極的に、こういうときにはこういう本を学校に送ることにしたらいい。先生たちもその方がありがたいと感じるのではないかな。

高村館長 私たちも情報が不足している部分があったので、今年、小中学校の学校司書要員と区立図書館の司書とで、合同研修会を開いて意見交換した。学校によって運営が多少異なるということがわかった。団体貸出は、確かに先生方もなかなか選書のためにひきふね図書館に来る時間もない中、大変だと思うので、こちらである程度、今の時期ならこの本がいいだろうというような形での団体貸出の選書を行い、学校へ提案していくやり方もあるのかなと考えている。皆様の意見を参考に取組を進めていきたい。

上田会長 団体貸出をする本については、区立図書館の蔵書なのか。

高村館長 区立図書館の蔵書である。

上田会長 教科の本に関してはいろいろ考えなければいけないのだが、楽しみのための読書に関しては、決して読まないわけではなくて読んでいる。先ほどの西村委員や持田委員の話でなるほどと思ったのだが、楽しみのために読む本は、自分の本として読みたい。そしてそれは、今は手軽に手に入ってしまう状況で、どれだけ読んでいるかはわからない。それらの数字は統計上出てこない。しかもそれらの本は、なかなか学校図書館でカバーし切れない。実際、中学生が本を読んでいるというこ

とであれば、それはそれでいいのかな、とも思える。何も学校図書館の貸出冊数を増やさなければいけないことでもないのかな、という気もしてくるが、その辺り、西村委員の考えを聞きたい。

西村委員 学校図書館の図書館担当では、子どもたちがネット通販で買うようなライトノベルは、学校図書館に置こうとしない。子どもたちはそういう本を読みたいのに学校図書館にはないから、自分で買ってしまう。きちんとした本とは何か、ライトノベルがいいのか悪いのか、という議論にもなってしまうが、団体貸出を増やすために、あえて図書館からライトノベルを借りてきて、読書週間のときだけ貸出しをするのも1つの方法かもしれない。ただ会長が指摘するように、無理して数だけを追い求めるのは、何か方向が違うのかな、という気もする。もう1つは、このところ進めている感想文コンクールの応募数で言うと、課題図書が約2割、自由図書が約8割である。東京都の各学年で、課題図書で4名、自由図書で4名が選ばれることになっているので、課題図書の方が選ばれやすいことをアピールしている。各学校での最初の選書の際に課題図書を学級分、例えば18クラスあれば18冊買って、それらを学級文庫に置くだけでも、それらの本を手にとる子が増えるのではないかと思う。その形式であれば選書しなくていいので、区立図書館で団体貸出してもらえるのもありがたいかなと思う。

上田会長 区立図書館では、課題図書を集中して購入しているのか。

高村館長 課題図書は揃えているが、集中して所蔵はしていない。

持田委員 課題図書が、必ずしもいい本とは限らないこともある。

上田会長 課題図書の中にもライトノベルは入っていたりするのか。

持田委員 ライトノベルだからよくないという意味ではなくて、質の問題だ。課題図書は前年度に出版されたものという規定があるので、どうしても新しいだけで質はそれほどでも、というものも混じってしまう。

高村館長 団体貸出の中身について、文科系の本以外にも理数系や英語の本も入れていかなければいけない。ある程度セットを作っていて、その中には英語のセットもあるのだが、もう少しバリエーションを増やした形で提供していけたらと考えている。その辺りは、学校の先生や指導室の意見を聞きながら進めていきたい。

西村委員 英語多読の資料を昨年度揃えてもらい、私の学校でも1セット借りた。普通の子も読むが、それを喜んで読んだのは外国に関わりのある子どもたちだった。英語の本はなかなか借りられなかったのだが、外国に関わりのある子どもたちは、すごく喜んで図書室に来ていた。英語で書かれた本を貸し出すことで、団体貸出も増えるし、そういう子たちが読書に親しむ環境を作れるのかなと思う。

持田委員 英語が母語でない中学生たちは、多読の本をどの程度読むものなのか。

西村委員 読書週間で英語の本を借りてきて読んでいる子もいる。初級編は絵本のような形式なので中1でも読める。1年生が最初に国語の時間を使って図書館の使い

方を学ぶ際、学校司書要員が国語の教師の代わりに図書室の利用の仕方等を教えてくれている。そのときに英語の本も紹介される。以前から英語の絵本を購入していて、そこに団体貸出で英語多読本を借りたので、うまくつながったのかなと思う。

議事第2

図書館ニュースについて

上田会長 第2番目の議事に入る。事務局に説明をお願いしたい。

高村館長 図書館ニュースについて説明

西村委員 実際は、カラー配布はしていないのか。

高村館長 ホームページ上はカラーだが、紙での配布は色紙に白黒印刷である。

西村委員 どういう形で配っているのか。例えば新聞に折り込んでいるとか。

熊倉次長 区内の各図書館・図書室や他の公共施設に対し、合計で650部配布している。図書館・図書室は約30部、その他の施設は約10部ずつ配布している。

西村委員 各家庭に配布するとしたら、使いやすいのは学校だ。この後のホームページの話にもつながるが、図書館ニュースを新しく発行したことがトップページでアピールされていないのではないか。

熊倉次長 毎月1日付けで発行しており、その際は図書館ホームページのトップページでお知らせしている。

碓氷委員 図書館ニュースの中身を見ると、いろいろな取組をしており、イベントをアピールすることで図書館利用者を増やす狙いがあると思う。最近では各自治体の図書館でいろいろなイベントをやっていて、例えば認知症予防の体操教室をやっているところがあって驚いた。広報という立場から、イベントの枠を広げてみるのもいいと思う。墨田区立図書館の登録者数を見ると、70代以上が少し下がっている。これからその世代が増えると思うので、それらの世代も利用しやすい環境を作りたいと考えてほしい。また、図書館から登録者に対して、図書館ニュースを送ることはしているのか。

高村館長 それはしていない。

碓氷委員 例えば登録者で希望する人に対して、図書館ニュースが発行されたのでご覧ください、というような通知を出してみたらいいのではないか。

高村館長 行うとしたら、メール等で通知する形になる。

上田会長 今はフェイスブックやツイッターは行っているのか。

高村館長 墨田区全体としては行っているのだが、図書館独自では行っていない。

熊倉次長 区の公式ツイッターを使って、図書館のイベントを広報するという事は、以前から行っている。

上田会長 アカウントは簡単に取れるので、図書館独自で行っているところもあるかと思う。やや驚いたのは650部という配布部数で、これではほとんどの人々には

行き渡らない。大抵の来館者は持っていかないということだ。費用的に何千部と刷るわけにもいかず、これが限界ということだとは思いますが。

高村館長 現実的には、今の部数から増やしても、千部くらいまでが限界である。

碓氷委員 イベントのチラシを区役所や出張所に掲示することはしているのか。

高村館長 通常は、各図書館で配布している。

碓氷委員 せっかくこれだけいいイベントをやっているのに、もう少しそれらの機関に掲示することを考えてもいいのでは。

持田委員 紙媒体は、今からそんなに増やす必要はないと思う。例えば12月号の5ページ目にある「アロマワンコづくり」は面白そうだが、ホームページでは目立つ形では載っていない。紙の図書館ニュースを見ると、面白そうなことをいろいろやっているのだが、なかなかホームページではそのページまで辿り着けない。すぐにわかる形で、ホームページでアピールできる方法はないだろうか。

碓氷委員 世代間格差もあると思う。我々の年代だと、どうしてもウェブは苦手だ。

持田委員 年配の人は、図書館に来て、紙の配布物を貰っていくが、若い人は貰わない。図書館に来ることもしない。要するに図書館に来ない人に、いかに働きかけるかというアウトリーチがすごく大事なのかなと思う。紙を配っていたらいくら予算があっても足りないのに、集中と選択ではないが、インターネットの活用かなと思う。

熊倉次長 紙媒体の広報については、区報においても、図書館の主要な事業を掲載している。特に、高齢者の方は区報を見て申込みをされている方が比較的多い。

西村委員 ホームページは様式が決まってしまうことが多い。それなので、先ほど上田会長が言われたように、フェイスブックやツイッターで、専用のページを立ち上げてもらえるといいかなと思う。図書館のホームページのトップページに、そこへのリンクを貼ればいい。そういう工夫をすれば、若い世代にとっては、紙媒体を使うよりも有効だ。

齊藤委員 図書館ニュースを作っている職員は、隅から隅まできちんと読んでいるのだろうか。例えば12月号の2ページの下、クリスマスグッズを作るイベントの記事は、かすれていてほとんど読めない。我々は毎月これを点訳するため、隅から隅まで読んでいます。例えば12月号の1ページ目に星のマークがあり、その上に黒い字が載っているが、高齢者はこれを読めないだろう。バリアフリーを考えると、視覚障害まで行かなくても高齢者の人が読むのならば、読みやすいように作っているのだろうか。4ページ目に「人生・生きがい読書会」の記事があるが、タイトル部分の地が黒いので、すごく読みにくい。弱視の方や高齢者の方が読みやすいように、レイアウトや文字の使い方をよく考える必要がある。実際、高齢者の知り合いの人からは、目が疲れるから読む気がしないと言われている。図書館の若い職員が作っているのであれば、高齢者の人に読んでもらって、読めるかどうか検証する必要がある。

ある。ホームページのカラー版はすごく見やすいのだが、ときどき写真等がうまく撮れていないものが載っている。我々は写真の状態もすべて言葉で説明して点訳しているのだが、なかなか説明し切れない写真が結構ある。それはどうしたらいいのだろうか。9月号は、オレンジの色紙に白黒印刷されていて、目がちかちかしてしまう。ホームページのカラー版は素晴らしいと思うが、ただ9月号も1ページ目の字がブルーなので、弱視の方は読みにくいはずだ。下地に色をつけるのはいいが、もう少しその辺りを工夫してほしい。視覚障害の人が使うソフトで、PDFを読み上げる機能があるが、PDF掲載の図書館ニュースでも画像をそのまま貼り付けている場合は、読み上げできない。テキストがきちんと入っているPDFを作ってもらえれば、それを音声で聞くこともできる。確かにひきふね図書館パートナーズが担当している記事は、画像をそのまま貼り付けないといけない部分もあるだろうが、その場合でも事前に、それらの点を意識して原稿を作ってほしいと依頼しておけばいい。ホームページを見ていても、元原稿をワードで作ったと思われるものは、いろいろ読み上げてくれるが、そのまま画像を貼り付けたと思われるものは、読み上げの情報が大変少ない。また、できればフェイスブック等は図書館独自でやるべきだと思う。例えば日本点字図書館はツイッターをやっているが、そういう図書館等の公式ツイッターだと、いろいろな人が結構リツイートしてくれて情報が拡散するので、すごく有効だ。現在、ひきふね図書館パートナーズは、フェイスブックとツイッターを持っているので、パートナーズ企画のイベントだけではなく、墨田区の図書館関係のイベントも一緒に掲載してPRしているが、すべてを載せることはできない。本当は図書館独自の公式ツイッターの方が信頼もあるし、リツイートしてもらえるとと思うので、それを考えてもらった方が、障害のある人にとっても優しいのかなと思う。紙媒体についても高齢者が手に取ってみようと思うものを工夫して作っていくといい。職員は大変かもしれないが、それらを考えてもらうこと自体、障害者サービスへの理解につながると思う。その辺りをぜひ取り組んでほしい。

高村館長 確かにレイアウトも昔からのもので、現状にマッチしていないとは感じていた。障害者の方への配慮は、指摘のとおりだ。即時性や広がりについても紙媒体には限界があると考えている。墨田区のフェイスブックやツイッターに関しては、区全体のPR戦略に基づいて設けられているものである。その中で図書館がどれだけPRできるかは、限界もあると思うが、まずは障害者の方に読んでもらいたいと思う。もちろん、高齢者や若い人にも読んでもらいたい。その辺りを今後検討し、時代に合わせた形でのPRに改良していきたい。

上田会長 ひきふね図書館パートナーズの企画イベントが紙面の半分を占めるのは、ずっと続いていることなのか。

齊藤委員 8ページ中の4ページが、パートナーズ企画として割り当てられている。

上田会長 今は指定管理者が様々な講座やイベントを企画しており、それらが紙面に

入り切らないとも聞いている。白黒印刷の紙媒体よりも、ホームページに掲載しているカラー版の図書館ニュースをメインと考えるのならば、ホームページ上ならページの制限はないはずなので掲載したいイベントは全部掲載できるのではないか。印刷するときにはそれができないのならば、その部分をどうするかを考えればいい。結局、紙媒体の650部ではそれほど行き渡らないので、あまり紙をメインに考える必要はない。紙媒体においてイベント情報が入り切らないのだったら、パートナーズにその旨を相談した方がいい。あとは齊藤委員が指摘したカラーの使い方だ。アクセシビリティ、つまり読みやすさの観点からすると、障害者や高齢者のことがあまり考慮されていないと思う。読めないものを公的な機関が公開しているというのは、あまり望ましいことではないので、組織的なチェックが必要だ。別にデザインに凝る必要はなく、イベントや講座等の情報がきちんと伝わるのが大切である。

日向副会長 紙媒体におけるパートナーズ企画の部分は、作ったポスターをスキャンして画像として取り込んで、それを貼り付けたものだと思うので、PDFで見ても、文字がぼやけていたり、写真がうまく出ていなかったりする。大きく使うポスターと、手元で読むものとは、同じレイアウトである必要はない。手元用には、どんなイベントが、いつ、どこで行われるか、という情報さえあればいい。この大ききで印刷するのであれば、イベント部分の紙面をもう少し小さくする、あるいは、8ページ目の催し表のようにダイジェスト版にしてみる。つまり、ポスターをそのまま貼り付けると、その分スペースが無駄になるので、手間はかかるが必要な部分だけを取り出して書いた方がいい。先ほどアクセシビリティの話もあったが、画像だと検索できない。画像の説明も入っていないのであれば、ここに何が写っているかわからない。毎月8ページの記事を作成するのは結構大変だと思うので、もう少しダイジェスト版のようにしてもいいのではないか。また、12月号の1ページ目の障害者週間の記事は、ポスターをそのまま使ってしまったのではないか。読むのが大変だし、どこから読んでいいかもわからない。障害者週間ということで、いろいろなイベントがあるようだが、当日受付のものと事前申込み制のものがあるので、それらをわかりやすく説明しておかないといけな。また、わかりやすいレイアウトにしないとダメ。ポスターで見てインパクトがあるものと、手元で読むものとは、全然役割が違う。12月号の1ページ目の障害者週間の記事で最も訴えたいところは何だろうか。まずは12月3日のイベントのことをきちんと書くべきだと思う。いろいろ盛り込まれていて、まずどこを見ればいいのかわからないし、字も小さい。手間はかかることだとは思いますが、きちんと編集した方がいい。そのためには、作る体制も考えてもらいたい。もし大変だったら、ページ数を少し減らすくらいの気持ちでもいいので、伝わるものを作った方がいい。メインのイベントタイトル、必要な申込み手続きや、日時、場所をきちんと構造的に作って、見やすく並べるようにする。普通は上から下に読むわけで、視線の動きの順に作った方がいい。

例えば、私の住む市の図書館ニュースは1ページだけで、そこに全部押し込んで作っていたりする。シンプルにイベント名と日時と場所くらいしか書いていない。その意味では墨田区は本当に頑張って作っているのだが、一方で読みづらい部分がある。作るときに、最初からもっと小分けにして作っておけば、それをそのままテキストとして使え、フェイスブックやツイッターに貼り付けることもできる。1ページ目の上段、墨田区立図書館の電話番号やURLも、黒地に白字のため、読みやすさからするとあまりよくない。そろそろレイアウトのデザインを変えてみていいのではないか。

高村館長 確かにずっとこのデザインなので、そろそろ変えていきたいとも思う。図書館ニュースで障害者の人へのアクセシビリティが悪いというのは課題であり、今後は紙面構成等をしっかり考えていきたい。

日向副会長 目次を入れてもらえるといいのではないか。8ページあって、その中にいろいろなイベントの記載があるので、できれば最初のページに目次があるとわかりやすく、見てみようかなという気になると思う。

持田委員 新聞でも今日のニュースという目次があったりして、確かに目次があるとわかりやすい。

齊藤委員 先ほど日向副会長が言われたことは、点訳版ではすでに行っている。点訳をするときに、まず図書館ニュースを読んで、どこから点訳していくかを考える。時系列的に、あるいはそれぞれの見出しを作って、申込み方法等も入れて、わかりやすいように並べ直している。このため、元原稿の段階からわかりやすく作ってもらえると、点訳がとても楽になる。また点訳版では、図書館ニュースのタイトルの下に目次も入れている。それがあれば、見たいところだけ読むことができる。

高村館長 見やすくするためにはレイアウトを見直さなければいけない。利用者本位の図書館ニュースでないといけない。アクセシビリティの観点や色使い、ポスターをそのまま貼り付けるのを避ける等、工夫していきたい。見直しの期間も必要なので、来年度からは紙面を新たにできるよう、進めていきたいと考えている。

議事第3

図書館ホームページについて

上田会長 第3番目の議事に入る。事務局に説明をお願いしたい。

高村館長 ホームページ画面をスクリーンに映しながら説明

持田委員 スマートフォン専用ページというのは、基本的には蔵書検索等しかできないようだが、何か理由があるのか。せっかく様々なお知らせがあるのなら、それらも全部見られたらいいと思うのだが。

大竹主事 墨田区の図書館システムにおいて、スマートフォン版のレイアウトを作ったのは、平成24年頃であり、その当時はスマートフォンの利用がそこまで多くな

かったので、蔵書検索をメインにしたレイアウトになっている。

上田会長 それに何か付け加えようとする、多くの費用がかかるということか。

高村館長 途中なので、大幅な変更は難しい。今後のシステムの更新時に、レイアウトを検討していきたい。

持田委員 墨田区立図書館ホームページの検索機能は、すごく使いやすい。当たり前のできていない図書館がたくさんある中で、墨田区は欲しい本が探しやすい。例えばNDCで探せたり、テーマやジャンルで探すこともできる。よくできていると思うのだが、それらのデータは誰が入れているのか。

白木主事 書誌データについては、業者から購入している。書誌的事項の他にもジャンル情報や、雑誌であれば特集名等のデータも入っている。それらも検索対象になっているので、探すことができる。

持田委員 児童書の絵本の中のどういうテーマごとでも探すことができ、大変便利だ。ここまでできる図書館はあまりないので、この機能はぜひ今後も残してほしい。

日向副会長 もしフェイスブックやツイッターのページを作ることがあれば、そのリンクを貼り、スマートフォンから見てもらうようにしてはどうだろうか。そこにイベントの案内等を蓄積していく。ページのトップの案内に、検索については現在のスマートフォンのページにリンクし、イベントについてはフェイスブック等にリンクするような工夫をすればいいのかもしれない。スマートフォンページがこのままというのはどうかと思うので、費用のかからないやり方を考えてもらえるといい。それは結局、職員の誰かがフェイスブックのページに入力していかなければいけないということだが。

持田委員 紙媒体を2千部、3千部刷るよりは、そちらの方がいいと思う。

上田会長 ホームページのトップ画面の中ほどに行事案内のメニューがある。これは図書館別に掲載しているのか。

高村館長 図書館別に出している。

上田会長 12月以降行われる行事が全部掲載されているのか。

持田委員 例えば「アロマワンコづくり」はどこに掲載されているのか。

大竹主事 12月の行事案内の中の、ひきふね図書館の下の方の、パートナーズ企画実施事業の箇所に掲載されている。

齊藤委員 ここのページの内容は、図書館ニュース12月号とは必ずしも一致していないようだ。区報の掲載のタイミングで申込み開始となると、あまり早くホームページに出せないのではないか。

上田会長 申込みの状況は、このページではわからないようだ。

高村館長 基本的には区報で掲載された日から受付としている。原則ホームページ掲載も、それと同時タイミングだ。

上田会長 このページに載っているものは、すべて区報に出るのか。

高村館長 すべてが区報に載るわけではない。

上田会長 指定管理館のイベントも同じ扱いで掲載されるのか。

高村館長 同じ扱いである。

上田会長 ホームページの更新は1カ月に1回なのか、それとも毎日か。

高村館長 掲載する情報があり次第、随時更新している。

日向副会長 行事は、過去1年分程度掲載しているのか。

大竹主事 行事案内のページに統一的に載せ始めた去年の12月からの分を掲載している。

高村館長 どこまで遡って行事案内を掲載していくかというルールは決めていない。

日向副会長 そんなに容量があるものでもないのに、過去の行事も載せておいた方がいいと思う。

持田委員 図書館が実施している行事に関しては、最終的には全部載っているということか。

高村館長 すべて掲載している。

日向副会長 行事ごとに、小学生向けとかのキーワードを入れて、検索性を高めるのもいいだろう。例えば、12月号6ページ目の「新年すみとりゲーム大会」というイベントは面白そうだが、「すみとり」という名前を知らないと、サイト内検索で出てこないかもしれない。そこで、ボードゲーム等のキーワードを入れておくと、検索性が高まるだろう。他の図書館の事例だが、実施したイベントの参加者数や当日の様子などを結果報告として載せておくと、それがそのまま事業報告となる。どんなイベントで参加者が何人だったかを記録として残すと、それ自体が今後のPRになる。そういう事後のフィードバックも必要だ。例えば今載っている、読書週間の「翻訳家 金原瑞人氏による講演会」のイベント結果報告のページはとてもいい。

高村館長 確かにこういった報告が今後も残っていけば、次回も参加してみようという動機につながると思う。

持田委員 時系列のイベント案内があると、とても見やすいと思う。次の土日にはこんなイベントがあるのだなどと、すぐにわかる。カレンダー形式のようなものがあるといいかもしれない。

日向副会長 地域の中でよく行く図書館は決まってくると思う。今後もし指定管理館の行事が充実してくるならば、個別の館ごとのページや内容を増やしていくことを考えてもいい。館ごとの行事に固定的に来る人もいると思う。その部分のページ作成を指定管理者に任せてもいいのではないか。現行の各館のページは、館の説明だけだが、例えば行事案内は館ごとにしてもいい気がする。

持田委員 現在、外部サイトがあるのはコミュニティ会館だけなのか。

高村館長 コミュニティ会館は、各指定管理者が作成している。図書館については、

中心館であるひきふね図書館で一括して作成している。

上田会長 コミュニティ会館のことは、図書館ホームページには載らないわけか。

高村館長 コミュニティ会館図書室の事業は掲載している。詳細については、各館のサイトにリンクを貼っている。

上田会長 コミュニティ会館ごとに外部サイトがあるということか。

高村館長 指定管理者がそれぞれ異なるので、別々に作っている。

上田会長 図書館3館の指定管理者には、独自にサイトを作らせることはしないのか。

高村館長 ひきふね図書館が中心館として広報等の統括をしているので、3館において指定管理者が独自に作ることはしていない。

上田会長 トップページの右側のタブに地域資料というメニューがある。これは地域資料を検索するだけのページなのか。

白木主事 このページは、墨田区の昔の写真資料を検索するページとなっている。

上田会長 このページがどういうものかという説明書きが何もないようだ。これらは何のために誰が集めて、どういう内容のものなのか、という説明があった方がいい。

高村館長 現在説明書きがないので付けていきたい。

日向副会長 少しだけでもいいので説明を載せてもらえるといい。

議事第4

その他

上田会長 その他として、何かあるか。

碓氷委員 次回で公募区民委員としての参加は最後になる。今期の大きなテーマとして、指定管理者制度の導入があったと思うので、今回はその総括を行ってもらいたい。また、来年度の業務方針のようなものがあれば、出してもらえるとありがたい。

高村館長 指定管理者制度が本年4月から始まっており、12月に全館で利用者アンケート調査を実施している。その結果や、指定管理者の事業実績等について、次回に報告できれば良いと思う。また、来年度の方針については、区全体の取組等が策定されるのが4月に入ってからなので、それを踏まえて説明したい。

齊藤委員 指定管理者制度の影響かはわからないのだが、視覚障害の人が障害者サービスを利用した際、担当者に代筆をお願いしたら、それはできないと言われ、やっってもらえなかったようだ。以前は職員がそのような対応もしていたらしい。指定管理者制度を導入したときに、それは業務の範囲外だから行わないことになったのか。それとも、今までは職員が個人的に対応していただけなのか。その辺りよくわからないのだが、図書館としてはどのように考えているのか。

高村館長 基本的には従来のサービスについて、指定管理者になったから行わない、ということにはならない。もしそのような事例があったら、具体的に相談してもらえれば、確認してきちんと対応する。従来のサービスは、変わらずに提供していく

考えである。

上田会長 以上で、第2回図書館運営協議会を閉会する。